

# 活動レポート

日本技術士会北海道本部 地方委員会

## 道南技術士委員会

技術者のミライ研究委員会主催・青年技術士交流委員会連携  
文責：道南技術士委員会 幹事 中谷 幸生

### 「新しいカタチの技術士を知ろう！への挑戦」 「技術士を知ろう！ in 函館工業高等専門学校」

#### 1. はじめに

道南技術士委員会では、「技術者のミライ研究委員会」(通称、ミライ研)が運営する出前講座「技術士を知ろう！ in 函館工業高等専門学校」の企画に継続参加させて頂いておりまして、令和元年より今回で6回目の講演開催となりました。

道南技術士委員会で活動する技術士には、本校のOBも多く、母校への恩返しとしても貴重な機会を頂いております。

#### 2. 実施概要

開演日時：2024年(令和6年)11月22日(金)

13:05～14:35

講演内容：全員参加型ワークショップ

講演：技術士資格の説明、制度概要  
技術士の仕事紹介(2編)

対象者：函館工業高等専門学校

社会基盤工学科3年生と5年生3名  
35名

参加者：仁田、千葉、仁義、三吉(ミライ研)

原田、原、中谷(道南技術士委員会で3名共に函館高専OB)

企画・脚本 木本(ミライ研)

#### 3. 事前準備

##### (1) 企画立案

昨年より赴任された、函館高専社会基盤工学科の金准教授(技術士：建設部門)は、とても熱意ある教育を実践されており、今回の「技術士を知ろう！」の講演に際して、以下のリクエストを頂戴しました。

①座学を公聴するような機会では無く、体験型の講演を企画して欲しい。(全員一斉参加とする。)

②今年度の学生は、ゼネコン業種の人気が高いため、工事施工管理に関連した講演を入れて欲しい。

従来は、技術士資格と制度の説明と建設コンサルタント、ゼネコン、公務員といった職種に従事する技術者の仕事紹介を通じて、卒業後のキャリアプランや土木業界を知ってもらうことを目的としておりましたので、「学生一斉参加型&技術士のマネジメントについて知って頂く方法」という課題のもと、新たなカタチへの挑戦となりました。

そこで、ミライ研、道南技術士委員会、金准教授でWEB会議を開催し、どのような講演とする事が最適であるか議論を深めました。その結果、学内にある題材を使ってワークショップを開催し、参加学生全員でアウトプットを導くことで、条件整理、課題解決とそのマネジメントについて体験頂く機会を提供する事としました。

##### (2) 全員参加型ワークショップ

通常の業務や研修会等においても、小グループのワーキングに分割した上で検討、提案、意見集約し、最終的な結論を考える手法は多く用いられますが、今回は、全員参加型のワークとなりますので、難しい条件設定では意見が出にくい事が懸念されました。

そこで、普段学生が身近に接する学内施設である旧屋内プールをリユースして新たな価値を見出す事をテーマに、活発な意見交換を引き出す事を発案しました。

#### 4. 全体ワーキングの様子

ミライ研と道南技術士委員会のメンバー紹介の後、千葉技術士と原田技術士の愉快なかけ合いによる司会進行でリラックスした会場の雰囲気を作ることができました。



写真-1 金准教授のオープニングを聞く学生



写真-2 司会の千葉技術士(左)、原田技術士(右)

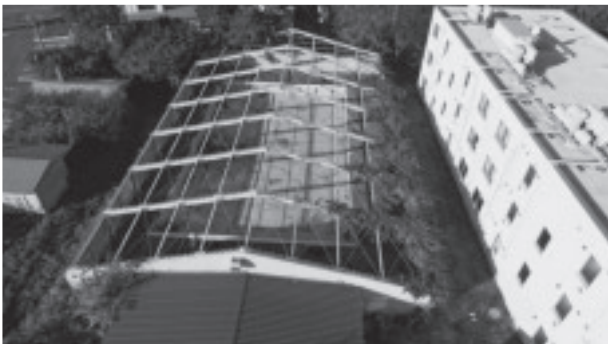


写真-3 リユースの題材となったプール施設

全体ワーキングでは、参加技術士たちが学生の周囲を巡り、対話からリユースの提案を引き出してホワイトボードに列記しました。その後、3つの制約条件を定義した上で活用計画をとりまとめました。

最終的なまとめとして、「スポーツジム」、「バレルサウナ」、「ライブハウス」としての活用が選ばれました。次点案として、魚の養殖施設、排雪場、貯水池、キャンプ場などが提案されました。これらの内容は学校へのご提案を金准教授にお願いしました。

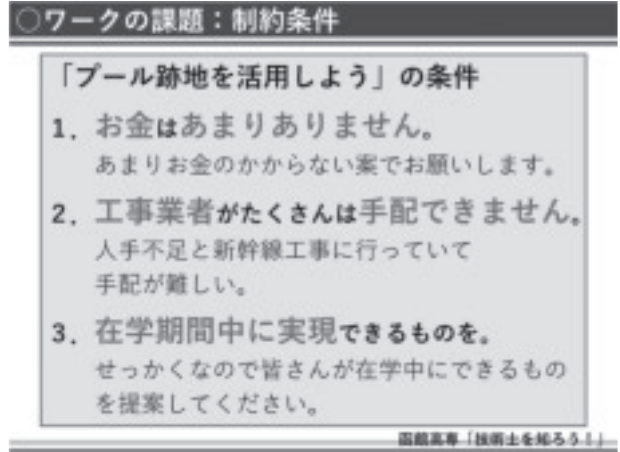


図-1 確変と称して与えられた制約条件

## 5. 技術士の仕事紹介

はじめに、三吉技術士(OB)により、技術士資格や、制度概要と併せて、取得すると得られるメリットなどを説明頂きました。ワークの後で活性化しているため、皆いきいきと聞いてくれました。次に七飯町で公務員技術士として活躍されている原技術士による公務員技術士の仕事紹介をして頂きました。公務員として仕事を進めるにあたり、技術士としての専門技術力やリーダーシップを様々な場面で発揮できると説明されました。最後に仁義技術士よりゼネコンの仕事紹介と題して、技術士が考える施工上の工夫について詳しく説明頂きました。通常行われる施工と対比して講じた工夫の説明がなされ、その結果得られたメリットを分かり易いスライドで説明されており、学生に良く伝わったと考えます。



写真-4 講演された原技術士(左)、仁義技術士(右)

## 6. おわりに

学生に向けたアンケートの結果、「講演が分かり易かった」との回答が94%で、「将来技術士になりたい」との回答は97%に上りました。今後もミライ研と道南技術士委員会は連携して技術士の魅力を伝えて「キラキラ、まし×2」活動を継続して行きます。